

# 「上山城」からのたより 春・第166号

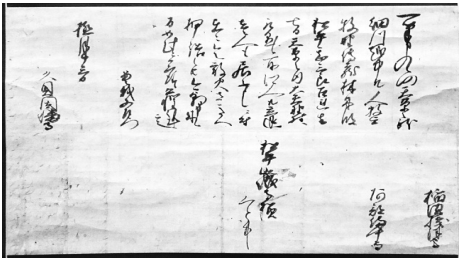
## 古い手紙 約四百年前に藤井松平家に届いた「島原の乱」の様子を伝えた手紙

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

不要な物を断ち切り、物への執着心をなくし、身軽で快適な生活や人生を手に入れようとする「断捨離」の思想が流行し久しくなります。「断捨離」自体を否定するつもりは毛頭ございせんが、職業柄、捨てられる物の中に「郷土のお宝(歴史資料や美術品)が混ざっていたらさあ大変」と思ってしまうかもしれません。「古いし、何だかわけ分からない」という理由で「断捨離」してしまう前に、ぜひ上山城までご相談を願いたいと思う次第であります。

前置きが長くなりましたが、今回は上山城収蔵の文書資料中、最古の部類に入る古い手紙をご紹介します(掲載画像参照)。その手紙は今から四百

年ほどの寛永十四(一六三七)年十二月十三日、曾我又左衛門ら幕臣四名から丹波篠山藩主 松平忠国に送られた手紙です。松平忠国は藤井松平家四代当主で、同家は元禄十(一六六七)年から明治四(一八七二)年まで上山藩主を務めています。



幕臣四名から松平忠国に送られた手紙 (上市市蔵)

さて、曾我らが送った手紙に話を戻しますが、そこには次のように記されています。一筆申九州天草之義、細川越中殿人数之牧野傳藏、林丹波、松平甚三郎召連、去七日天草之内大野村へ取懸候所、郷人共立退害人も居不申二付、在々令放火さきへ押詰之由、今朝申来候間如此二御座候、恐惶謹言

前半部にある「天草」の文字でピンときた方もいるかと思いますが、これは寛永十四年十月、長崎(島原 天草地方)で発生した天草四郎率いる大規模な百姓キリスト教徒一揆「島原の乱」の様子を伝えた手紙です。手紙には百姓が逃げ出し無人と化した村々を放火しつつ、幕府軍が一揆勢を制圧すべく進軍していることが記されています。個人的には、藤井松平家が幕臣から一揆の戦況を伝えられる立場にあったこと、さらに、かなり古い手紙であるにもかかわらず良好な保存状態であることに驚きを感じてしまいました。みなさんは如何に感じましたでしょうか？

このように、「一見「古くて訳の分からない」と思うものであっても、よく調べてみると「へえ」と思うような事実が隠れている場合があります。

先にも申し上げましたが、「これは？」と思う物が見つかったときは、「断捨離」する前に、ぜひ上山城にご相談ください！

【常設展示室から】今回紹介した手紙は今月から上山城二階第三展示にて展示します。